

これからの公民館の在り方について  
(建議)

平成30年2月15日

茂原市社会教育委員

## 目 次

---

はじめに	1
1. 茂原市公民館の現状	2
2. 理想の公民館像	2
3. 活性化に向けた取り組み	3
(1) 利用者層の拡大	3
(2) 広報活動の充実	3
(3) 新たな事業形態の提案	4
(4) 民間活力の導入	5
4. 今後の展望	5
おわりに	6

## 資 料

---

茂原市の公民館に関するアンケート調査	7
社会教育委員会議の開催日程等	13
茂原市社会教育委員名簿	15

## はじめに

わが国では、核家族化や少子高齢化の進展に伴い地域のつながりが希薄になっていると言われて久しい。私たちの茂原市においても、自治会の加入率や子ども会の加入者数などを見ると明らかな減少傾向にあり、その一端が伺える。

また、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)、eコマースの普及などにより、従来からのコミュニケーションの多くが電子機器上のやり取りに取って代わられている。情報化の流れは個人と個人、個人と社会の関係性を大きく変えつつあるが、個々人の生活における身近な人との密接な関係がその価値を失うことはない。むしろ、このような時代であるからこそ、大人が精神的な豊かさを得て人間らしく暮らすために、また、子どもが健全に力強く育っていくために、人と人とのつながりの大切さが改めて強く叫ばれているのである。

つながりが生まれる土壌として地域が果たす役割は大きい。しかし、今後もその役割を果たし続けていくためには、社会の変化に合わせて地域も変わっていかなければならない。そのためには、教育行政の中で最も地域に根差して活動し、住民に直接的に影響を与えることができる公民館を活性化させて、地域に働きかけていくことが必要であると私たちは考えた。

ここに、社会教育委員の立場から、茂原市公民館がより多くの市民に利用され、地域活動の拠点となるよう充実・改善すべき点を指摘するとともに、地域の活性化につながる方策を提案したい。

# これからの公民館の在り方について

## 1. 茂原市公民館の現状

近年、茂原市の公民館は非常に厳しい環境に置かれている。市の財政健全化に伴う予算の削減や人員調整措置等によって施設運営や事業内容は硬直化せざるを得ない状況にあり、施設設備の老朽化も深刻である<sup>1</sup>。また、利用者についても高齢化や団体構成員の固定化が進んでいる。

本建議の作成に際し「茂原市の公民館に関するアンケート調査」（以下「市民アンケート」という。）を実施したところ、公民館を積極的に利用している人（ほぼ毎日～月に数回以上利用する人）は 5.2%と低い水準にあった。一方で、過去 1 年間利用しなかったという人が 44.6%、これまで全く利用したことがないとする人が 31.0%を占めており、残念ながら7割を超える市民にとって公民館は「なくても困らない」存在になってしまっている。

このような状況にありながらも、主催教室の開催や部屋の貸出し、自主グループの支援など公民館の基本的な役割は果たされているが、それらについても前述の理由から次第に活力が失われつつある。

## 2. 理想の公民館像

公民館の原点は「集う」ことと「学ぶ」こと。そして、その主体となるのは地域住民である。このことを念頭に置いて、あるべき公民館の姿を考察していきたい。

私たちが理想とする公民館像は、公民館の事業が常に「集い」と「学び」を両輪として行われ、そこから地域住民のつながりが確立されていく、というものである。公民館は、きっかけとなる教育の機会と場を提供し、つながりが生まれた後はその成長をサポートし、持続性のある組織になるよう援助する。そして、そこから公民館の活動を支援してもらうようなフィードバックが得られれば、なお望ましい。

また、生涯学習推進の観点から、公民館の利用者はある特定の世代や一部の団体に偏るべきではなく、子どもから高齢者まで幅広い世代に利用されなければならない。

---

<sup>1</sup> 各公民館の建築年は、中央公民館が昭和 42 年築、本納公民館が昭和 48 年築、鶴枝公民館が昭和 57 年築。なお、本納公民館は本納支所との複合施設として現在建設中であり、平成 30 年 2 月に完成予定。

### 3. 活性化に向けた取り組み

#### (1) 利用者層の拡大

公民館活動全般の傾向として、利用者の固定化や高齢化が挙げられる。より多くの市民に利用してもらい公民館を活性化させるためには、幅広い世代が惹きつけられるような事業展開をし、利用者層を拡大する方策が求められる。

現在、主催教室は平日の昼間のみ開催されているが、今後は時間に制約がある就労者や子育て世代にも配慮して、夜間や休日にも教室を開催し集う機会の拡大を図っていくことが必要である。このことに関しては「公民館の設置及び運営に関する基準」(平成15年文部科学省告示第112号)第7条第2項において「開館日及び開館時間の設定に当たっては、地域の実情を勘案し、夜間開館の実施等の方法により、地域住民の利用の便宜を図るよう努めるものとする」とされており、開館日や開館時間の設定のみならず教室等の開催時間についても柔軟に設定し、一層利用しやすい施設となることを目指すべきである。

利用者の高齢化に対しては、利用者層を子どもや若年層にも広げ、できれば三世代で交流できるような場所を目指してほしい。そのためには、親子で参加できるイベントを企画したり、子ども会等の青少年育成関係団体との連携を図るなど、新たな切り口から事業を展開する必要がある。

利用の少ない若年層の活用機会を増やす努力とともに、主な利用者層である高齢者の利用機会についても更なる拡充を図ることが求められる。内閣府の平成28年版高齢社会白書によれば、60歳から69歳の高齢者の多くが、生涯学習を行っていない理由として「きっかけがつかめない」(20.9%)、「一緒に学習や活動をする仲間がいない」(13.6%)、「必要な情報がなかなか入手できない」(9.2%)を挙げている。このことから、学習への意欲は持っているものの、はじめの一步を踏み出す機会を見いだせない高齢者が相当数いることが分かる。このような層にとっても公民館が最適な受け皿となれるよう、ニーズに応じた教室等を企画するとともに適切な情報提供を行っていくことが必要である。

#### (2) 広報活動の充実

市民アンケートによれば、公民館を利用しない人の多くが、その理由として「どのようなことができるかわからないから」(39.4%)、「利用方法がわからないから」(30.8%)を挙げており、公民館事業についての周知が不足していることが伺える。これでは、そもそも活動場所としての選択肢に含めてもらうことさえできず、たとえ魅力的な事業を展開できたとしても利用者の増加は見込めない。

広報活動は、事業の実施を周知するために行うのは勿論であるが、まずは公民館を学習や活動の拠点として認識してもらい、ということ強く意識して行われるべきである。例えば、市の広報やホームページやSNSを活用して行なう参加者募集でも、各事業の掲載時期をずらすなど断続的に発信し続けることで、公民館が積極的に活動していることを印象づけることができる。そうすることで、ある事業に参加しなかった人にもそれ以降の活動場所の一つとして公民館を認識してもらえらる。

また、主催教室等の個別の事業については、ポスターを市内の民間事業所に貼ってもらい広く市民の目に触れるようにしたり、現在公民館を利用している団体にチラシを配布して、口コミのきっかけづくりをするなど草の根的な方法も効果的である。

### (3) 新たな事業形態の提案

公民館が事業を企画するにあたり、誰にでも喜ばれる内容を目指しても、中途半端に終わってしまう恐れがある。そこで、新たな利用者と呼べるような魅力的な事業にするためには、対象となる利用者の世代や立場(就労・就学状況や家庭環境など)を考慮し、それに応じたニーズを把握・分析して、適切なプランを提供することが重要である。とはいえ、限られた職員数と予算ですべてのニーズに応える多種多様な事業を行なっていくというのは現実的ではないので、事業の選択には効率性も求められる。例えば、異なる世代が同時に成果を得ることができ、実施後には自主的な活動につながっていくような事業があれば最適である。

ここで私たちは、この条件を満たす事業形態として「参加交流型学習」を提案したい。これは子どもたちの学び、遊びを地域住民がプロデュースするというものだ。このプランの利点は、教える側(大人)と教えられる側(子ども)のいずれも地域住民であるという点にある。つまり、先ほど述べたように、異なる世代が同時に参加できる。また、成果として、子どもは異なる世代の人との係わりの中で社会性を身につけることができ、大人は子どもの健全育成に携わりながら新たな横のつながりを構築できる。参加者それぞれが学び教える喜びを得ながら、世代の縦横に連なる豊かな交流も図られ、さらに横のつながりから自主的な組織が派生して新しい地域活動が生まれることも期待できる。以上のことから、「参加交流型学習」は人づくり・まちづくりにもうってつけの事業と言えるので、推奨したい。

参加交流型学習の成功例として、文部科学省による第67回優良公民館表彰(平成26年度)で最優秀館となった広島県の大竹市立玖波公民館を挙げる。

「本公民館では、3年前から参加交流型学習を取り入れた『学びのカフェ』を毎月開催し、地域住民同士のつながりを構築させ、3年目にはさらに地域課題を住民と共に学び考え、その解決に向けた事業『地域ジン学びのカフェ』に発展させた。地域住民がまちを元気にすることに意欲的となり、地元商店街の活性化を目的に『見知らんガイドマッ

づくり』を行い、さらに活用のためスタンプラリー大会を開催した。そして『地域ジンまちカフェプロジェクト』が立ち上がり、町をあげての大イベント『まちカフェ』を開催した。」

#### (4) 民間活力の導入

近年では、施設運営に指定管理者制度を用いて活性化を図る自治体が増えている。民間事業者は多数の施設を運営することによってノウハウを蓄積しているとともに、広いネットワークを持つことから、単独の自治体では達成することが困難な事業も企画・実施することができる。茂原市でも、市立図書館の運営を民間事業者に任せようになってから、本来の図書館業務のみならず幅広い事業展開が行われて好評を得ているので、公民館の運営についても同じように導入を検討してもよい。

#### 4. 今後の展望

平成 29 年度中の完成が予定されている本納公民館・本納支所複合施設では、老朽化による施設面のハンデから解放されることから、実施事業の魅力そのもので勝負することができる。そこでは、従来の運営形態に捉われることなく積極的に新しい事業に取り組んでもらい、今後他の公民館がリニューアルされるまでの間、茂原市の公民館行政を牽引する役割を期待したい。

公民館は既にその役割を終えているから、過剰な施設であり不要であるとの意見もある。しかし、戦後に設置されて以降、公民館は時代に合わせてその役割を変えつつ、地域社会や社会教育を支えてきた。現在も公民館が各地域に行政サービスを届けることができる貴重なインフラであることに変わりはなく、私たちは今後も積極的に活用されていくことを望む。時代に沿った適切な役割を持ち続けるとともに、行政でなければできない取組みを多く行って、市民にとって「なくてはならない」施設であり続けてほしい。

## おわりに

戦後間もない昭和21年、公民館活動は開始されました。それから今日まで、公民館は地域の人々に最も身近な学習や交流の場として、活力と潤いのある地域社会の実現のため、大きな役割を果たしてきました。

70年が経過した現在では、少子高齢化と人口減少、地域コミュニティの希薄化、個人の価値観やライフスタイルの多様化が進んでいます。このような社会構造、国民意識の大きな変化を背景に、公民館の役割や講座の在り方等について見直しが必要になっています。社会の要請に的確に対応し、子どもや若者、働き盛りの世代の人も含めた社会全体の学習ニーズの把握と学習機会等の充実が求められるとともに、学習や活動の拠点となるために講座内容や実施時間、施設設備の改良・改善を行っていくことも望まれています。

このような状況を鑑み、私たち社会教育委員は、茂原市公民館の活性化について教育委員会に建議を行なうことといたしました。本件に関する検討会議は、公民館運営審議会との合同会議を含めて10回行い、検討資料とするために公民館に関する市民アンケート調査も行いました。アンケートでは、次のような意見が多く見られました。

- ① 公民館がより多くの人に利用されるための取り組みとして、公民館の利用方法や活動内容等を広報・ホームページ等でPRする。地域で活動している団体の活動内容や加入方法等を宣伝し、地域活動への関心を高める。
- ② 住民主体の課題解決や仲間づくり等の地域活動を活発にするために、公民館は、どのような役割を果たすべきか。講座等で参加者同士が交流する機会を積極的に設ける。地域住民と公民館が協働して講座を企画・実施する。

今、公民館の活性化を目指し、その在り方を見直す意義は大変大きいと考えます。公民館活動の根本は「集い」と「学び」と「結ぶ」です。そして、公民館活動の主体は地域住民であることを再確認しなければなりません。更に、これからは「参加交流型学習」を目指し、地域の大人と地域の子どもが交流できる事業を企画して幅広い世代に利用され賑わう、市民活動の拠点となる「市民活動センター」の性格を持つ施設＝公民館にしたいものです。

最後になりますが、平成30年4月には、本納公民館・本納支所複合施設「ほのおか館」がオープン予定です。新しい公民館での地域づくり・絆づくり事業の実施が大いに期待されます。

平成30年2月15日

茂原市社会教育委員  
委員長 中山 清志



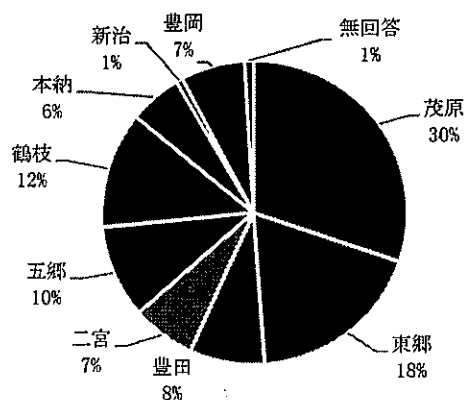
## 茂原市の公民館に関するアンケート調査

調査の目的	茂原市社会教育委員による茂原市公民館の活性化に向けた提言をまとめるにあたり、市民の意見等を検証し、反映させることを目的とする。
調査の方法	平成28年12月1日を基準として、茂原市に居住する20歳以上の市民1,000人を住民基本台帳から無作為抽出し、調査票を郵送した。回答も郵送による。
実施期間	平成29年1月12日(木)から平成29年1月27日(金)まで
送付数	1,000件
回答数	426件
回収率	42.6%

### 1. 回答者について

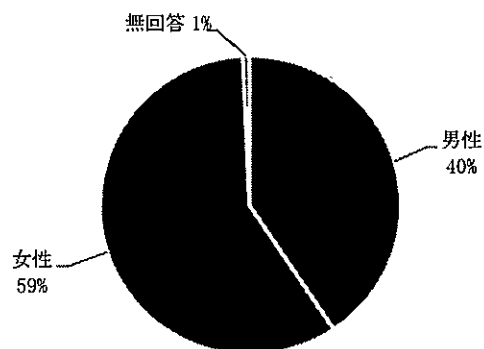
#### (1) 居住地区

回答	回答数	率	(参考) 市人口分布
茂原	129	30.3%	29.5%
東郷	79	18.5%	19.2%
豊田	34	8.0%	8.3%
二宮	29	6.8%	7.0%
五郷	42	9.9%	10.9%
鶴枝	53	12.4%	11.1%
本納	24	5.6%	6.2%
新治	3	0.7%	1.7%
豊岡	29	6.8%	6.1%
無回答	4	0.9%	
計	426	100.0%	100.0%



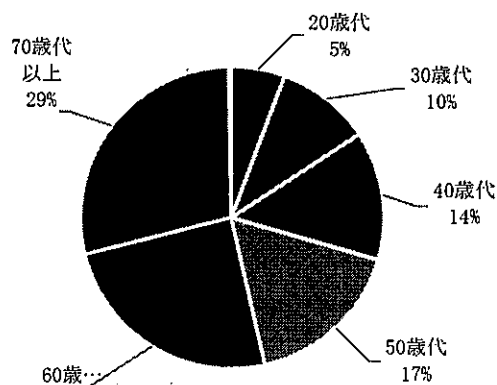
#### (2) 性別

回答	回答数	率	(参考) 市男女比
男性	173	40.6%	49.6%
女性	250	58.7%	50.4%
無回答	3	0.7%	
計	426	100.0%	100.0%



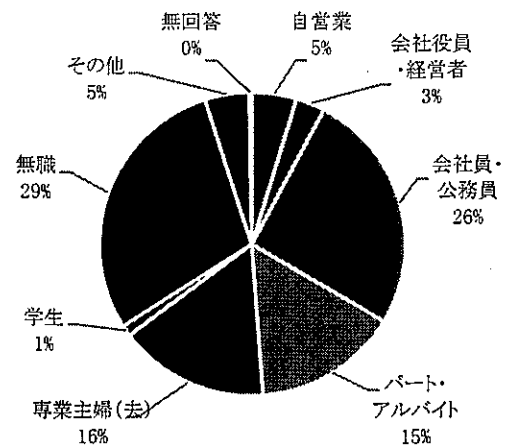
#### (3) 年齢

回答	回答数	率
20歳代	24	5.6%
30歳代	43	10.1%
40歳代	59	13.8%
50歳代	72	16.9%
60歳代	105	24.6%
70歳代以上	122	28.6%
無回答	1	0.2%
計	426	100.0%



(4) 職業

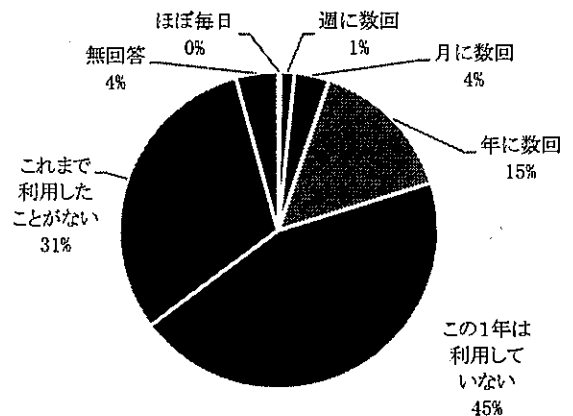
回答	回答数	率
自営業	20	4.7%
会社役員・経営者	13	3.1%
会社員・公務員	110	25.8%
パート・アルバイト	65	15.3%
専業主婦(夫)	68	16.0%
学生	5	1.2%
無職	124	29.1%
その他	20	4.7%
無回答	1	0.2%
計	426	100.0%



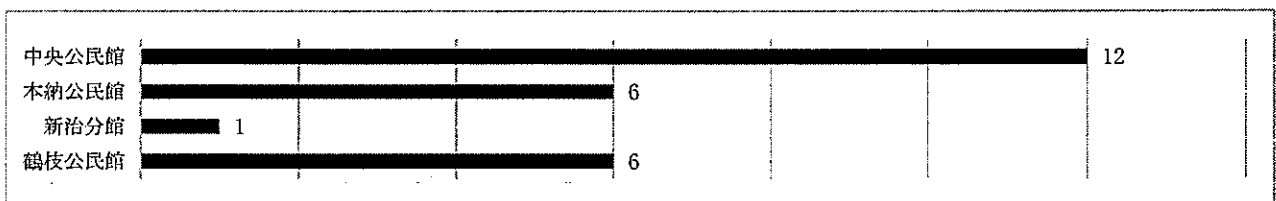
2. 公民館の利用について

(1) 過去1年間にどのくらい公民館を利用したか

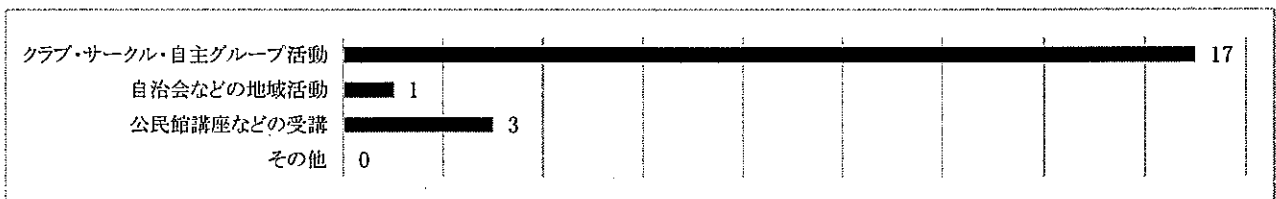
回答	回答数	率
<b>Aグループ</b>	<b>22</b>	<b>5.2%</b>
ほぼ毎日(2日に1回程度利用)	1	0.2%
週に数回(週に1、2階程度利用)	6	1.4%
月に数回(月に3回程度利用)	15	3.5%
<b>Bグループ</b>	<b>386</b>	<b>90.6%</b>
年に数回(年に3回程度利用)	64	15.0%
この1年は利用していない	190	44.6%
これまで利用したことがない	132	31.0%
無回答	18	4.2%
計	426	100.0%



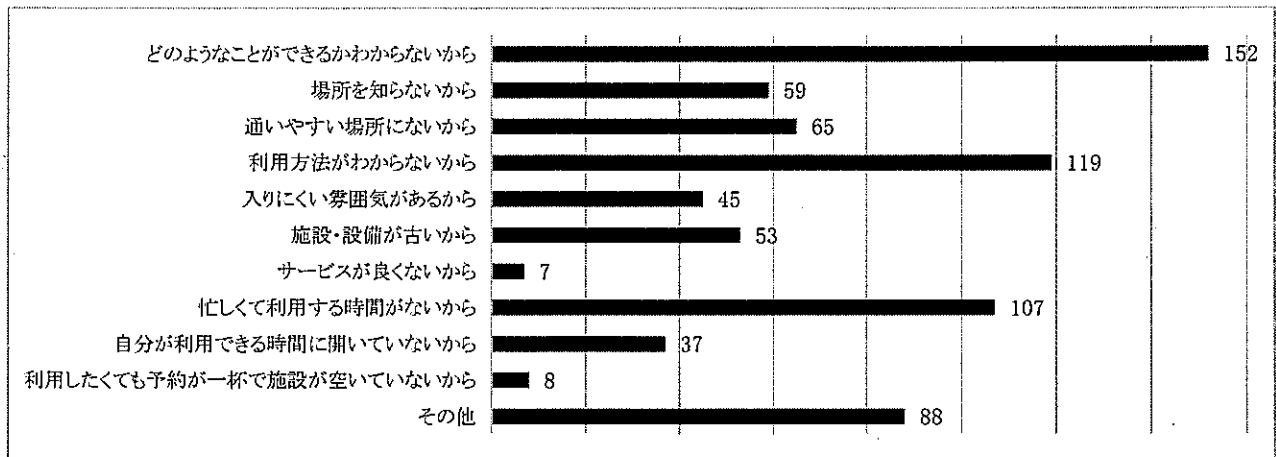
(2) Aグループの人は、どの公民館を利用したか



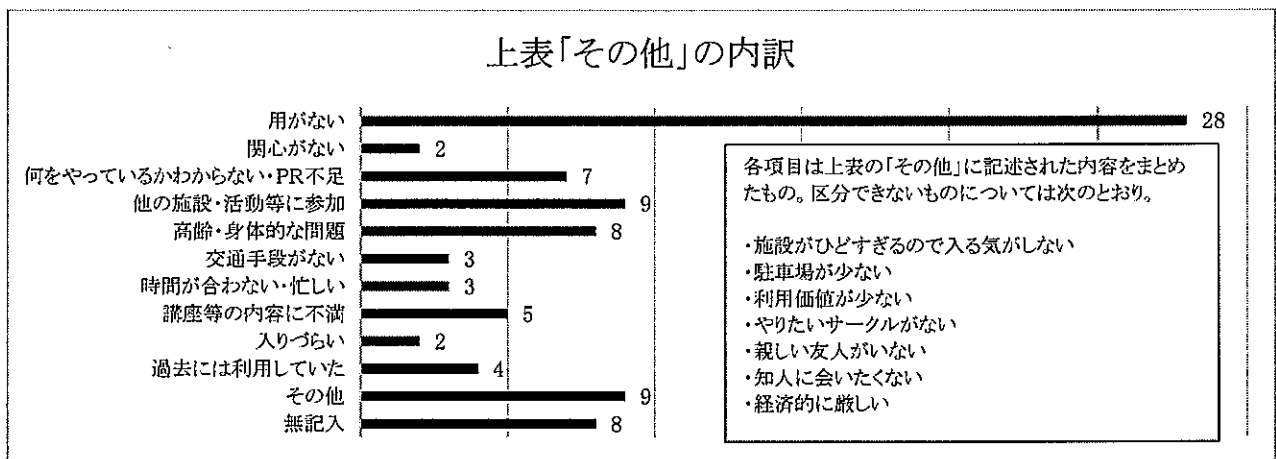
(3) Aグループの人は、どのような目的で利用したか



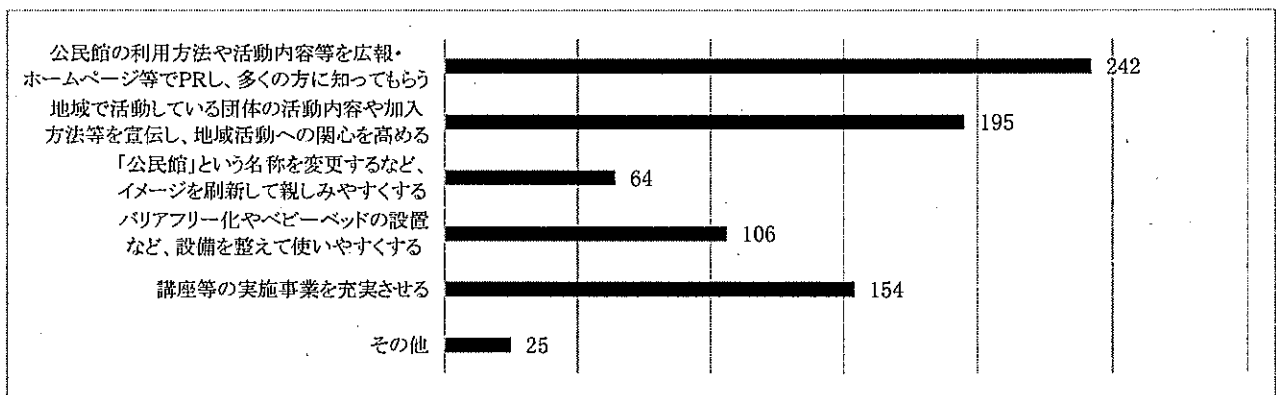
(4) Bグループの人が利用しない理由



上表「その他」の内訳



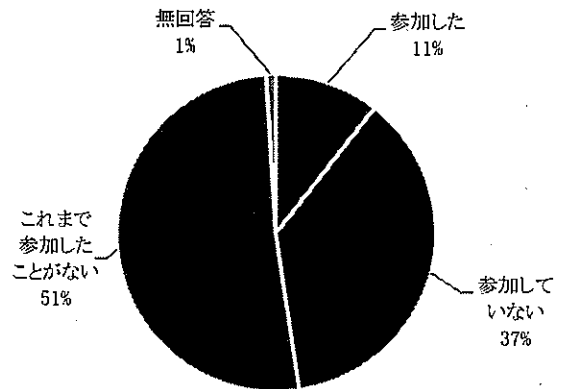
(5) 公民館がより多くの人に利用されるためには、どのような取組みを行うべきか



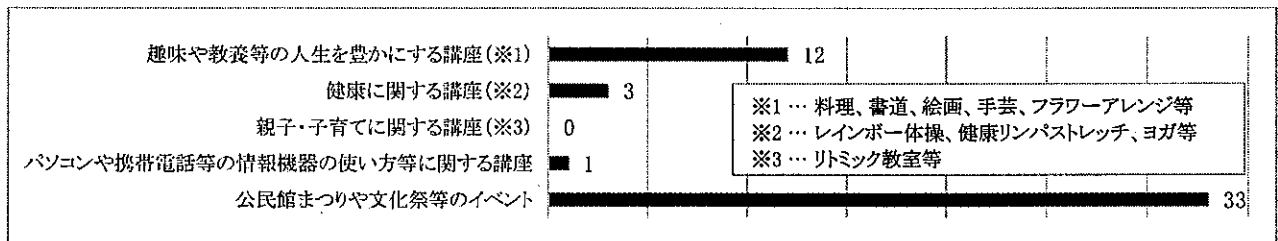
### 3. 公民館の事業について

(1) 過去1年間に公民館が主催する講座等(主催教室、公民館まつり、文化祭等)に参加したことがあるか

回答	回答数	率
A'グループ	45	10.6%
参加した	45	10.6%
B'グループ	377	88.5%
参加していない	158	37.1%
この1年間に限らず、これまで参加したことがない	219	51.4%
無回答	4	0.9%
計	426	100.0%

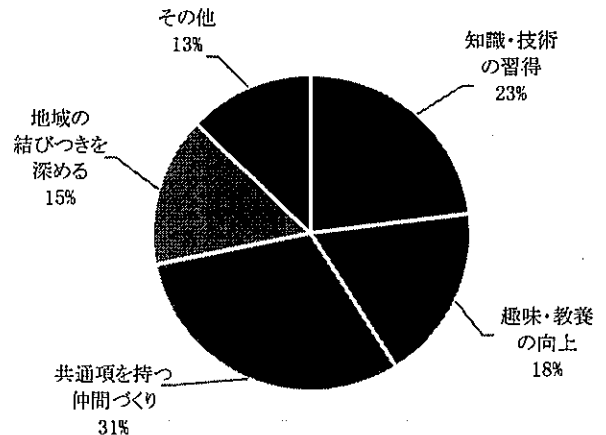


(2) A'グループの人ほどどのような講座等に参加したか

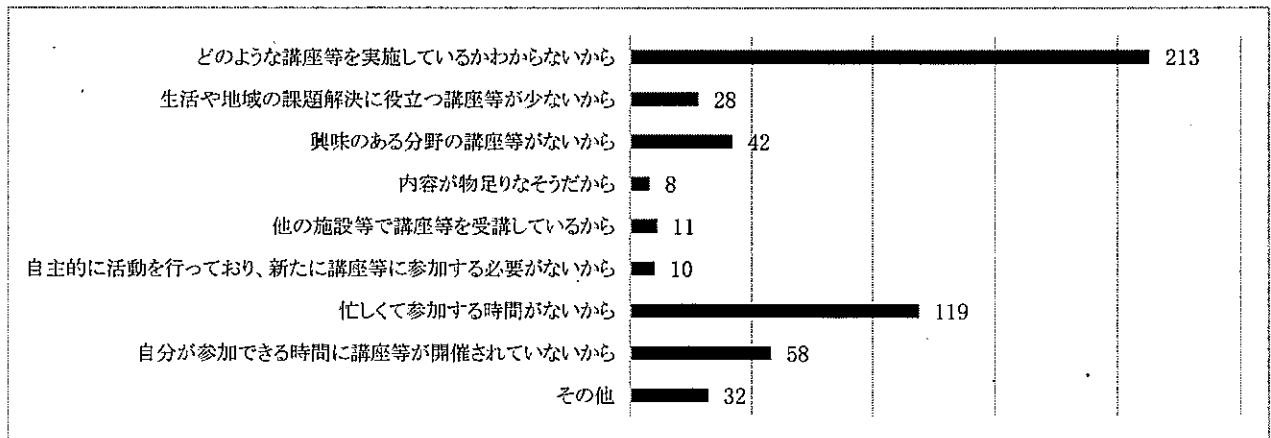


(3) A'グループの人が講座等に参加した目的

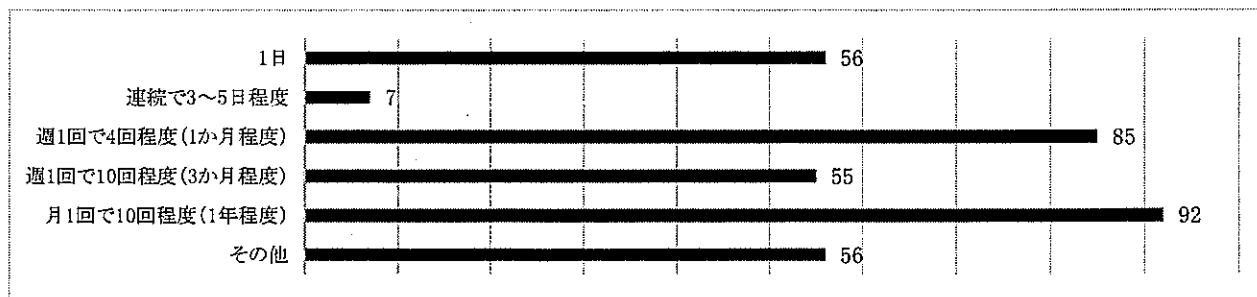
回答	回答数	率
知識や技術を習得したかった	9	23.1%
趣味や教養を高めたかった	7	17.9%
共通の話題や趣味を持つ仲間をつくりたかった	12	30.8%
地域における結びつきを深めたかった	6	15.4%
その他	5	12.8%
計	39	100.0%



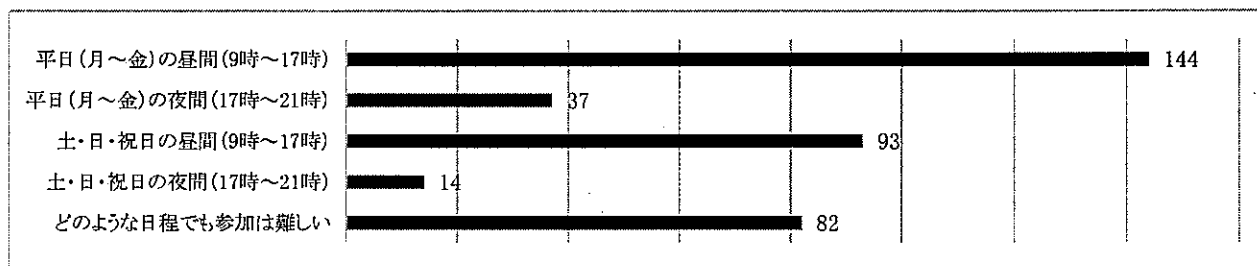
(4) B'グループの人が講座等に参加していない理由



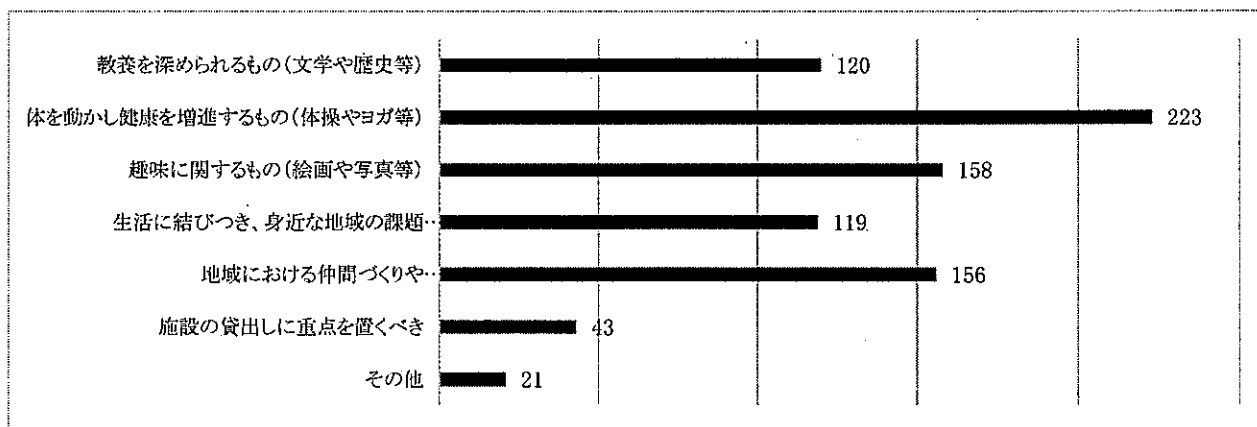
(5) B'グループの人が講座等に参加するとした場合、どのくらいの実施回数(期間)を希望するか



(6) B'グループの人が講座等に参加するとした場合、参加しやすい時間・曜日はいつか



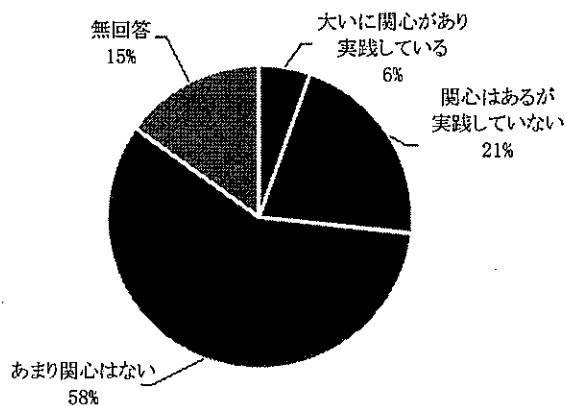
(7) 公民館はどのような講座等を実施・充実していくべきか



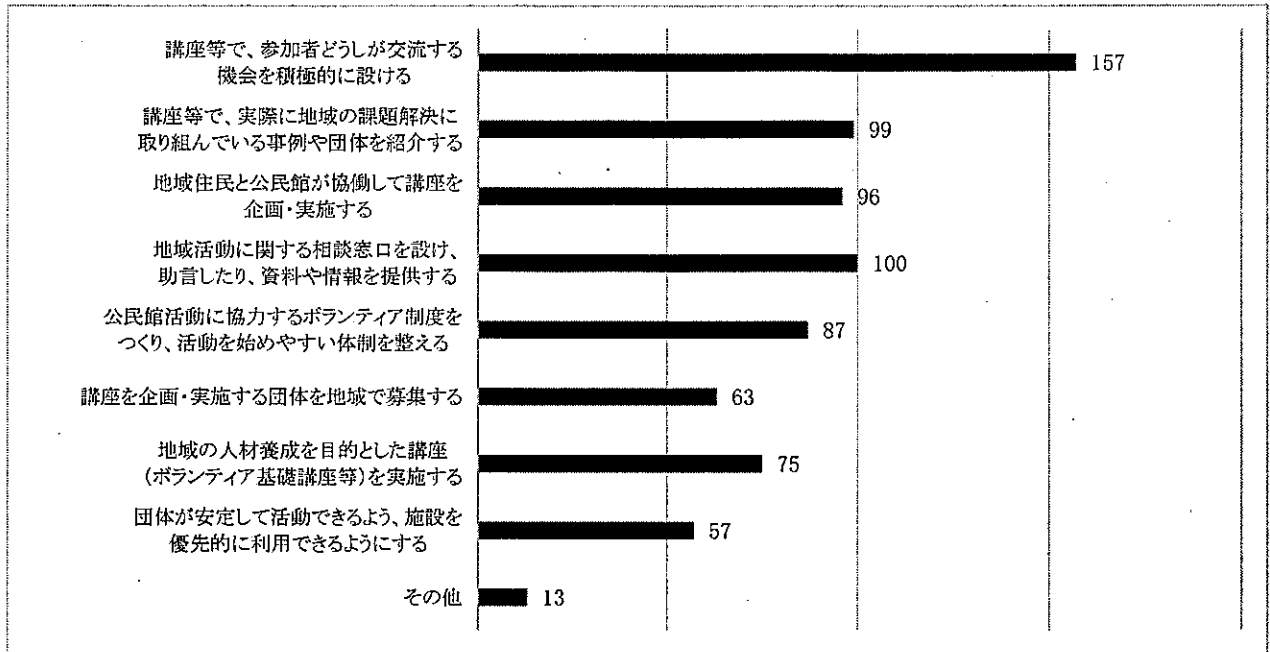
4. 地域活動について

(1) これまでに身につけた知識や能力、特技などを地域で活かしていくことに興味があるか

回答	回答数	率
大いに興味があり、実践している	23	5.4%
興味はあるが、実践していない	91	21.4%
あまり興味はない	248	58.2%
無回答	64	15.0%
計	426	100.0%



(2) 住民主体の課題解決や仲間づくりなどの地域活動を活発にするために、公民館はどのような役割を果たすべきか



## 社会教育委員会議の開催日程等

- (1) 平成26年度 第3回茂原市社会教育委員会議  
日時：平成27年3月16日（月）15：00～  
場所：市役所9階901会議室  
概要：本件について建議を決定
- (2) 平成27年度 第1回茂原市社会教育委員会議  
日時：平成27年5月7日（木）14：30～  
場所：市役所9階902会議室  
概要：取りまとめの方針やスケジュールの確認
- (3) 平成27年度 第2回茂原市社会教育委員会議 ※公民館運営審議会と合同開催  
日時：平成27年12月15日（火）13：30～  
場所：市役所9階 901・902会議室  
概要：公民館運営審議会との意見交換
- (4) 平成27年度 第3回茂原市社会教育委員会議  
日時：平成28年3月14日（月）14：00～  
場所：市役所9階 902会議室  
概要：前回会議までの意見集約
- (5) 平成28年度 第1回茂原市社会教育委員会議  
日時：平成28年5月11日（水）14：00～  
場所：市役所7階 701会議室  
概要：建議書初稿の内容について検討
- (6) 平成28年度 第2回茂原市社会教育委員会議  
日時：平成28年12月15日（木）13：30～  
場所：市役所9階 902会議室  
概要：アンケート実施の決定及び内容の検討
- (7) 茂原市の公民館に関するアンケート  
実施期間：平成29年1月12日（木）～1月27日（金）  
概要：住民基本台帳から無作為抽出の市在住20歳以上90歳未満の日本人男女  
1,000人に対し実施。郵送による調査票の配布・回収。回収数426件（回  
答率42.6%）

(8) 茂原市公民館の利用者アンケート

実施期間：平成29年2月15日（水）～3月3日（金）

概要：自主グループ・定期的利用団体の代表者135人に対し実施。郵送による調査票の配布・回収。回収数135件（回答率100.0%）

(9) 平成28年度 第3回茂原市社会教育委員会議

日時：平成29年3月13日（月）14:00～

場所：市役所9階 902会議室

概要：建議書第二稿の内容について検討

(10) 平成29年度 第1回茂原市社会教育委員会議

日時：平成29年5月11日（木）午後2時～

場所：市役所9階 902会議室

概要：建議書第三稿の内容について検討

(11) 本件に係る校正会議

日時：平成29年9月21日（木）午前10時～

場所：市役所9階 902会議室

概要：建議書第四稿の内容について検討

(12) 平成29年度 第2回茂原市社会教育委員会議

日時：平成29年12月18日（月）午後2時～

場所：市役所9階 902会議室

概要：建議書最終稿について確認



# 茂原市社会教育委員名簿

任期 平成28年4月1日～平成30年3月31日

氏名	選出区分	備考
中山 清志	学識経験者	委員長
湯浅 幸子	学識経験者	副委員長
古山 幹夫	学校教育関係者	平成29年5月1日就任
内富 康二	社会教育関係者	
野田 秀子	社会教育関係者	
別府 智子	家庭教育関係者	
白鳥 みゆき	家庭教育関係者	
河野 通貞	学識経験者	
中田 文昭	学識経験者	